

ボーイスカウト東京連盟  
あすなろ地区 広報誌  
第29号  
2019年(令和元年)  
12月4日  
組織拡充委員会

## 菊スカウト章、隼スカウト章の授与

10月24日(木)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、杉並11団ボーイ隊の高野夏帆さんに菊スカウト章が、杉並11団ベンチャー隊の三好彩さんに隼スカウト章が授与されました。

三好彩さんは隼スカウト章プロジェクトとして、三好さんをリーダーに3人で湘南・鎌倉方面へ2泊3日のサイクリングの探検旅行を行い、思ったより距離が長かったこと、必要以上に荷物も多く、途中で足が痛くなったスカウトもいて、湘南のキャンプ場に2時間以上遅れて到着した経験が最も印象に残ったとのことでした。

高野夏帆さんは、菊に求められる班キャンプを昨年12月にオオカミ班の班長としてカトリック下井草教会の杉並11団スカウト広場で行い、スカウト広場から武蔵関公園まで往復10kmの夜間班ハイクを行いました。

また、団恒例のアウトドア教室、スカウトの日の清掃活動、赤い羽根共同募金、なかのまちめぐり、井草どんどこやきなどの奉仕を行いました。



前列左 三好さん、右 高野さん



## 菊スカウト章の授与

11月22日(金)、なかのZEROで開催された地区委員会に先立ち、杉並3団ベンチャー隊の城慎太郎さん、松尾奏流さん、松窪遼史さんに、岡村地区協議会長から菊スカウト章が授与され、飯沼地区副コミッショナーより、菊スカウト章のネッカチーフリングが授与されました。



岡村地区協議会長からは、「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくして、さらに隼スカウト章、富士スカウト章をめざしてほしいとの激励の挨拶があり、参加者は弥栄三唱で受章を祝しました。



前列左から松窪さん、松岡さん、城さん





## カブラリー 善福寺川緑地で開催



参加賞の  
缶バッジ

11月24日(日)、カブラリーが善福寺川緑地のセンター広場で開催されました。地区内の8こ団のカブスカウトが参加し、朝の雨もあがった秋空のもとで、紅葉した木々に囲まれて、「大冒険～怪人をやっつけろ～」をテーマにして相互交流をしました。

大きな輪になった開会セレモニーのあと、各スカウトが事前に作った名刺を交換して新しい仲間を作り、グループに分かれて、指令書に従って各ポイントに設けられたキムスゲーム、人文字作り、しっぽとり、ネッカチーフリレーなどのゲームを楽しみました。

参加前に各自が作成した紙皿のフリスビーを大きな的に投げ入れたり、飛ばした距離を競うゲームもありました。食事のあとは猛獣狩りやジャンケン列車などの全体ゲームで動き回り、閉会式では各ゲームの成績が発表されて優秀グループの表彰があり、色とりどりのフリスビーの優れたデザインの表彰もありました。

各ポイントの事前準備、ゲームの指導、採点などは、地区ローバーの皆さんの協力により行われました。



全員で記念撮影



誰のフリスビーが遠くまで飛ぶか競うゲーム



大輪になって開会セレモニー



事前に作った名刺を交換



キムスゲーム



フリスビーを的の中心に投げ入れ



グループ対抗しっぽとり



人文字づくりで「イキ」



昼食タイム



ジャンケン列車



成績優秀グループの表彰



## 指導者研修セミナー —安全普及フォーラム—

11月30日(土)、あすなろ地区指導者研修セミナーが井草地域区民センターで開催されました。

本年のセミナーは、日本連盟が推進している「安全普及フォーラム」として、活動中に発生する事故の予防について研修が行われました。

基調講演として杉並区児童青少年課の土田課長さんより、「杉並区の青少年育成施策」の講話があり、「§1. ヒヤリ・ハット」、「§2. 休憩時間の過ごし方」、「§3. 事故事例によるケーススタディ」のセッションが設けられ、各講師からの講話、グループにわかれてスカウト活動中の具体的な事故事例による原因分析、対策の検討などが討議されました。



「ヒヤリ・ハット」の講話では、結果として事故などの危難に至らなかったもので、そのまま見過ごされてしまうことがあります。事故や災害が発生した際には、その前には図のように多くのヒヤリ・ハットが潜んでいるおそれがあるため、スカウト活動中の現場などでのヒヤリ・ハットの事例を収集・分析し、危難を予防する日常的な行動の管理が望まれる話がありました。

「事故事例によるケーススタディ」の講話では、安全対策は個人に安全責任を押し付けることなく、団・隊が安全に対する共通の認識を持ち、継続的な取り組みのためのしくみとして、スカウトの能力を考慮した教育方法、安全意識を考慮した活動の展開、安全計画の作成などが大切になる話がありました。

さらに、スカウト活動で事故ゼロにすることは難しいものの、多くの事故は防ぐことができ、共済責任保険や日本連盟ホームページの[ダウンロード]—[その他]で検索できるスカウティング誌掲載の安全講座の記事なども活用し、事故を考えて活動を委縮することなく、十分な安全性を担保して、ボーイスカウトらしい、冒険的で挑戦的な活動を展開したいことが強調されました。

また、参加された方からは、「大変勉強になった」「安全管理の意識が高まった」との感想がありました。



基調講演 杉並区 土田課長



§1 小平講師 杉並12団



§2 成田講師 杉並3団



§3 飯沼講師 杉並12団



事故防止のための原因分析のお話



グループに分かれて討議し発表



# なかのまちめぐり博覧会

# ゲームコーナーを各団で工夫

11月10日(日) なかのまちめぐり博覧会が中野四季の森公園で「みんなであそぼう！ワクワクランド～冒険の森を探検しよう！」をテーマにして開催されました。

秋の陽ざしの公園では、芝生などでくつろぐ親子連れの姿も多く、中野区内のすべての小学校に、参加を呼びかけるパンフレットを送付したこともあり、受付で配布した300枚の参加カードが不足するほど、多くの子どもたちでにぎわいました。

各団が設けたコーナーでは、箱の中の品を手探りであてるゲーム、手裏剣投げや割りばし鉄砲、傘袋ロケットの工作、くもの巣のように張られたロープの鈴を鳴らさずにすり抜けるゲーム、目隠しをして足先でロープの道をさぐり、坂を越えトンネルをくぐるゲームなどが行われました。

各コーナーではゲームを楽しんでもらうと参加カードにスタンプを押し、全てのポイントをまわると参加の記念品が贈られました。また、スカウトの増加に役立つよう、アンケートにはボーイスカウト活動の関心度、案内資料の送付希望の有無などの記入もお願いしました。



受付 杉並2団



スカウトコーナー



輪投げ 中野3, 5, 11団



割りばし鉄砲づくり 中野3, 5, 11団



手品 中野3団



手探しゲーム 杉並6団



手裏剣投げゲーム 杉並4団



観察ゲーム 中野8団



暗号解読ゲーム 杉並11団



見つからないように進め 杉並5団



ロープの道 杉並12団



カサ袋ロケット 杉並9団



## ビーバーラリー テーマは「ビーバー動物王国」

10月27日(日)、ビーバーラリーが井の頭自然文化園(動物園)で「ビーバー動物王国」をテーマに開催され、中野8団、杉並11団、杉並12団のビーバースカウトと指導者・保護者が参加しました。

ビーバーラリーは昨年度までの「歌とゲームの教室」に代わり、各団ビーバー隊の交流促進を図るため、合同の隊集会として開催されました。

開会セレモニーのあと、動物カードを使って各団混成の6つのチームに分け、「フェネックの黒い毛はどこにはえている？」など、動物をじっくり観察して興味を増し、理解を深めるクイズが出題され、スカウトは出題された動物を探して、クイズの解答を考えました。

チームのメンバーで仲良く昼食のあと、動物狩りのゲームやチーム対抗のジャンケンゲームなど、全体ゲームで盛り上がり、閉会セレモニーでクイズの答え合せを行い、次回の再会を約して散会しました。



フェネック



全員で記念撮影



開会セレモニー



フンボルトペンギンのくちばしを観察



シカの角には毛がある？皮がはがれる？



ヤギの目は横長、縦長、丸？



いきもの広場の池のまわりを観察



解説員からヤマネコの骨格の話



グループ毎にお昼の食事



動物狩りに行くぞ～！



ジャンケンに負けるな！



閉会セレモニー



## すぎなみ舞祭 子ども遊びコーナーにモンキーブリッジ

10月20日(日)、すぎなみ舞祭が下高井戸おおぞら公園で開催されました。

すぎなみ舞祭は、杉並区を拠点に活動するキッズダンスチームにより、元気で笑顔に溢れたダンスで地域を活気づけようと始まった祭典で、ヒップホップダンス、フラダンス、チアダンスなど、各グループの自由で華やかなダンスが演じられ、大勢の方々が来場して声援しました。

あすなる地区では場内の交通整理のほか、子ども遊びコーナーにボーイスカウトのコーナーを設け、モンキーブリッジを作り、ロープワーク、キムスゲームなど、ボーイスカウトの活動を紹介しました。またチューブ型飛行機の工作や輪投げ、輪ゴム鉄砲、魚釣りコーナーも設け、ビーバー、カブ、ボーイの制服を着て写真撮影ができるコーナーでは、制服を着てゲームを楽しんだり、写真を撮ってもらう子どもたちも多く、人気でした。



区長の挨拶



メインステージで総員のダンス



サブステージでのダンス



制服を着て飛行機作り



割りばし鉄砲



輪投げ



魚釣り



モンキーブリッジ



もやい結びなどロープワーク



制服を着て記念撮影



キムスゲームに挑戦



なみすけも登場



テントも広げてくつろぐ方々



## ボーイ、ベンチャー技能訓練



10月27日(日)、パイオニアリングの技能章訓練が八王子ひよどり山野営場で開催されました。各団のボーイ、ベンチャースカウト28名が参加し、丸太を使った台形信号塔、ピラミッド塔を製作しました。

8月25日(日)の事前集会で材料、設計図、結び方を確認して模型も作り、9月8日(日)開催予定が雨で順延し、16日(月、祝)も悪天候のため、2度延期しての実施となりました。

開会式の後、作業衣に着替え、丸太を縛る位置を正確に計測して、角縛りや、すじかい縛りで荒縄を縛り、出来上がった信号塔はロープでゆっくり引っ張って立ち上げました。

完成した信号塔は高さが約6mあり、スカウト全員が順番に縄ばしごで登り、手旗で送信する訓練も行いました。

参加した杉並12団ベンチャー隊の橘田哲一さんは、『ボーイ隊の頃から使っていた角縛りやすじかい縛りなどの結び方を最初から丁寧に教えてもらい、自分のロープワークの詰めの甘さを知ることができたのでよかった。』

ロープワークは野外工作物を作る時の基本なので、今回学んだことを次からは意識して改善していきたい。機会があればボーイ隊のスカウトにも今回のように丁寧に教えたい』との感想がありました。





## 初開催の信仰奨励章挑戦集会

信仰奨励委員長 津村道夫

11月24日(日)、信仰奨励章挑戦集会が杉並9団の母体である浜田山キリスト教会で、あすなる地区のボーイ隊とベンチャー隊を対象にして開催されました。

ボーイ隊以上で菊章を取得する際には、信仰奨励章を取得する必要があります。信仰奨励章には「自分の家の宗教(派)か、興味を持った宗教(派)の宗教儀礼、宗教行事、またはスカウトOWN・サービスに参加する」「自分の家の宗教(派)か、興味を持った宗教(派)の教導職から信仰や宗教について話を聞く」という項目があります。地域団の場合は、なかなかその機会がないため、地区として今回の集会を開催した次第です。



参加スカウトは4つの団から30名ほどで、プログラムは三つに分かれ、一つ目のパートでは「日々の善行」について、各自の体験談をグループで話し合い、その内容を劇にして発表しました。

二つ目のパートでは、ベーデン・パウエル卿の「ラストメッセージ」を読み、そのメッセージについて思うことを話し合いました。

最後のパートでは、キリスト教形式のスカウトOWN・サービスを実施し、青山牧師にお話をいただきました。

信仰奨励章は、三つのちかいである「神と国のため、人のため、自分のために全力を尽くす」ことについて考える機会を提供することが目的です。スカウトたちにとっては普段は経験できない機会を得ることとなりましたが、これが今後のスカウト活動に深みを与えるものであることを、開催担当者としては願っています。





# BSA秋季キャンプ2019

# あすなろ地区幹事隊長 古川久生（杉並6団）

10月18日(金)～20日(日)稲城市の在日米空軍多摩ヒルズレクリエーションセンターで開催された「BSA秋季キャンプ2019」に、あすなろ地区からスカウト15名、指導者3名が参加しました。このプログラムはBSA主導で運営され、関東近隣の5県連盟（東京、神奈川、埼玉、千葉、山梨）のスカウトも参加し、米国スカウトだけでなく、他地区、他県連のスカウトとも交流を図りました。

キャンプに先立ち、10月14日(月、祝)にあすなろ地区事前集会を中野ZEROで開催し、班分け、班長・次長等の役割分担を決めました。

初日の18日の夜はキャンプサイトに到着した時点から雨が強くなり、雨の中で設営を行い、夕食の弁当はテント内でするような状況でした。翌朝も雨が残りましたが、開会セレモニーが終わる頃によりやく雨がやみました。

2日目は、日米スカウトが混成班を作り、9つのアクティビティをまわり、スカウトスキルやゲームを競い合いました。混成班は10人のパトロールが4つでカンパニーとなり、全体で8つのカンパニーが編成され、投てき、射的、通信、班旗立て、リンツ－製作など8つのアクティビティに取り組み、最後に8カンパニーによる綱引きのトーナメント戦で締めくくりました。

キャンプファイヤで日中のアクティビティの順位発表があり、あすなろスカウトが所属したカンパニーは第3位となり、賞品をいただくことができました。今回のBSAキャンプは、台風19号の直撃で運営スタッフの現地での事前準備ができなかったにも関わらず、予定していたプログラムを実施することができました。

運営スタッフ、SAJローバーの皆様のご努力に敬意を表しますとともに、キャンプ終了後、濡れたテント類の乾燥作業場所と作業の支援をいただいた杉並3団の皆さんに感謝します。



あすなろ地区の参加メンバー



左・中・右  
参加章  
開会セレモニー



射撃



アーチェリー



投てき



左：班旗立て、中：リンツ－製作



綱引き



## ボーイスカウト講習会

10月6日(日)、第307回ボーイスカウト講習会が、南部すこやか福祉センターで開催されました。

主任講師は日本連盟アシスタントリーダートレーナーの小山恭子さんで、19名の方々が参加し、3つの班に分かれて活動しました。

「スカウト運動」、「スカウト教育」、「各部門の特徴」などの6つのセッションがあり、「愉快的活動(ハイキング)」のセッションでは小雨まじりの中でしたが、雨具を着て指示書に記されたポイントの公園に向かい、木に吊るされた絵を記憶するキムスゲーム、班員が協力して引きとけ結びの投げ縄で昼食のペットボトル飲料を引き上げるゲーム、立ち木の間隔を歩測するゲームを行いました。

また午後のゲームでは、隊長をじっくり観察したあと、再び登場した時の服装などの変化を見つけるゲーム、指定された公園内の同じ落ち葉などを集めるゲームが班対抗で行われました。

閉講式では主任講師から修了証が手渡され、参加された皆さんの各団・隊での活躍が期待されます。



清田上班のアイスブレイクゲーム



ロープワークの練習



隊長に報告してハイキングに出発



じっくり観察して記憶



投げ縄で飲み物をゲット



木と木の間を歩測



昼食の準備



変装前の島田隊長をじっくり観察



指示された落ち葉を集めるゲーム



修了証の授与



## 発団60年記念式典を行いました ☆ 杉並2団☆

11月23日(土)、杉並2団の60周年記念式典が築地本願寺和田堀廟所本堂で、引き続き祝賀会が蓮華の間で開催されました。

杉並2団は昭和35年(1960年)11月23日の発団で、あすなる地区では中野3団(旧126団)の昭和30年に次いで、長い歴史を持つ団になります。

記念式典は白川育成会長の司会で始まり、スカウトの手によって献灯、献花、献香が行われ、平井団委員長の代表焼香、合唱・礼拝、国旗儀礼、連盟歌・真宗宗歌斉唱などのあと、来賓としてあすなる地区の岡村地区協議会会長が祝辞を述べました。

蓮華の間での祝賀会では、発団当時のスカウト達や、指導者として奉仕された方などの関係者が集まり、発団当時やその後の長い歩みを振り返った数々の思い出話などで歓談し、多数の景品のあるビンゴゲームもありました。



式典を待つスカウトたち



白川育成会長の開会の辞



献灯・献花・献香



平井団委員長の挨拶



岡村地区協議会長の挨拶



発団時のスカウトたち



元カブ隊指導者のかたがた



会場の様子



たくさんのビンゴの品



## 杉並2団 発団当時の思い出

杉並2団 団委員 平野 謙吾

昭和35年（1960年）の11月23日に、東京160団（現在の杉並2団）は、約30名のボーイ隊の隊員で発団しました。スカウトの多くは、昭和22年生まれの子供たちでした。

育成母体の本願寺和田堀廟所には日曜学校があり、そのメンバーで野球チームができ、それがお寺のお坊さんのチカラでボーイスカウトの発団へと変化しました。

発団式の当日は、曇天のとても寒い日だったと記憶しています。隊の編成は、隊長、隊付、上級班長、それに4ケ班のスカウトでした。

発団前は、友団の築地本願寺の東京134団（現在の中央10団）の指導者、スカウトの応援があり、一緒に訓練キャンプをしたり、また当時の西部地区からは、地区コミッショナーがゲームやソングの練習、訓練に来てくれました。

応援に来てくれた指導者、スカウトは、前年に開催された第2回日本ジャンボリー琵琶湖大会の話をととても興味深く話してくれて、ワクワクしたものです。

後になって聞いた話ですが、11月23日に発団しました東京160団は、2～3ヶ月前に発団できる状態であったものの、団の番号が158団ぐらいなるため少し待って、覚えやすい160団にしたとのことでした。

発団時の4ケ班の名前は、バッファロー班、イーグル班、スワロー班、タイガー班だったため、その頭文字をとって“BEST160”と名付けて盛り上がりました。

発団2年後の昭和37年には待望の第3回日本ジャンボリー御殿場大会に、当時は地区単位の参加ではなく各隊単位で参加して、参加者2万6千人の大キャンプの貴重な体験をしました。

このジャンボリーの後は、引き続き御殿場の隣の富士吉田市で、浄土真宗・本願寺派の大会にテント泊ではなく、民家に2泊で参加し、今となってはとても楽しい思い出です。

この60年間、多くの友と様々なスカウト活動の経験・体験をしてきましたが、この活動がその後の実生活に大いに役に立っていると思っています。



## 杉並第2団発団60周年を祝して

地区協議会長 岡村 實

杉並第2団の発団60周年、誠におめでとうございます。

長きにわたり築地本願寺和田堀廟所を拠点に、地域に根差したボーイスカウト運動を展開された杉並第2団のスカウト、指導者、育成会をはじめ、関係者の皆さまの熱意と努力に敬意を表します。

あすなる地区としましても、杉並地区の時代を含め、登録審査やリーダーの集い、また各種技能研修会等の会場として利用させていただき、多くのスカウト、リーダーが育っていきました。ここに改めて御礼申し上げます。個人的にも平野謙吾さんを主任講師に、段ボール箱を利用した燻製作りの野外料理研修等を懐かしく思い出します。

さて60周年と言えば、人間では「還暦」です。あすなる地区の杉並の団としても、最初の「還暦団」です。

この後に続く仲間のためにも、スカウト数の減少や子供の習い事の多さなど、厳しい社会環境の中ですが、これまでの杉並第2団の良き歴史と伝統を引き継ぎ、「ちかいとおきて」を基にしたスカウティングの原点を見つめた新たなスタートの時とし、今後の70周年、更には100周年を目指して活動を続けていただくことを祈念して、お祝いの言葉とします。





## ローバー100kmハイクに挑戦 杉並5団ローバー隊(ボーイ副長) 関戸 大輔

11月16日(土)～17日(日)、東京連盟主催の「第53回東京連盟ローバー100kmハイク」が開催されました。あすなる地区からは、参加者として私と、本部スタッフ奉仕として2名が参加しました。

100kmハイクのコースは地図の通り、八王子のひよどり山キャンプ場～小平市～練馬区大泉学園～世田谷区野毛～調布市～町田市野津田～立川市に設けられた各チェックポイントを回り、各チェックポイントでは首から下げたIDカードに通過したことを記録してもらい、ひよどり山キャンプ場に24時間後の午後2時までに到着するものです。

このイベントには、東京連盟のローバースカウトだけでなく、他県連のローバースカウトも含めて参加者は302名(男子211名、女子91名)が参加し、213人が完歩し、完歩率は67.4%でした。

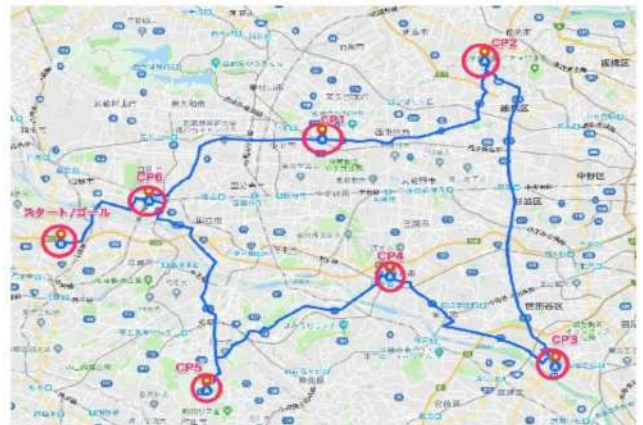
16日(土)、八王子のひよどり山キャンプ場に参加者が集合し、開会式の後、午後2時に全員一斉スタートしました。途中で仮眠をしていると時間内にゴールできないため、睡魔と戦いながら、ペースを崩さず、つらさもありますが自分の限界に挑戦しながら歩くことが重要になります。

私は、去年に続き2回目の参加でした。結果は、道半ばで体力の限界に達し、完歩とはなりませんでしたが、100kmハイクは、自分自身との戦いです。完歩するには、入念な準備と本番での挫けない精神力が必要です。今回、あすなる地区からは私のみの参加でしたが、100kmハイクはローバースカウトであれば誰でも気軽に参加できるイベントです。

次の100kmハイクにはあすなる地区から多くのローバースカウトの皆さんが参加することを期待しています。



第2チェックポイントの練馬区大泉さくら運動公園で(関戸)



## 実行委員で奉仕 杉並9団ローバー隊(ベンチャー副長) 望月 海

ローバー100キロハイクは3年前と2年前に歩き、昨年と今年は実行委員として携わりました。100キロハイクの魅力はローバーの活動らしく、目標を個人で立てることができる点にあると思います。歩く人はそれぞれ「なぜ歩くか」理由を探して臨みます。また、実行委員のメンバー

もそれぞれ色々な思惑の中、業務に向き合っています。

私は今年、参加者対応部門のチーフをさせていただき、しおり作りや当日の電話対応をしました。うまくいかない点もありましたが、様々なサポートの中で自分が作業を進められることを改めて感じ、人との関わりの大切さや感謝の念を思うことができました。

あすなる地区からも自分以外に杉並6団の井上元紀さんが実行委員として参加し、杉並5団の関戸陽輔さんは参加者として出走されて、100キロハイクを盛り上げる一端を担えたと考えています。

いま、地区報を見ているローバーのみなさんも、ぜひ来年の100キロハイクと一緒に盛り上げましょう！





## ウッドクラフトコース 第1期に参加 中野8団ビーバー隊副長 清田義隆

ウッドクラフトコースは隊指導者上級訓練を修了した者を対象に、本年度から定型訓練として開設されたもので、日本連盟・大和の森 高萩スカウトフィールドで9月21日(土)～26日(木)、5泊6日で開催され、15県連盟の39人のメンバーが参加しました。

私がこのコースに参加した動機は、①自分のスカウトスキルの限界を知る ②ボーイ隊プログラムに想定を盛り込むためのアイデア吸収 ③指導者登録以降、未経験だった1泊ハイクへの参加の3つでした。結果として、参加前の想像を超える成果を得たと考えています。

コースの目的は『スカウト技能を活用したプログラム開発能力を身につけること』にあり、セッションの展開は行われず、スキルを活用した様々なゲームや集会等を体験する場所となっており、毎日のプログラムは事前に班長会議が行われ、隊集会に向けた班集会以想定に沿って班で打合せを行い、行動することで、スカウト技能を活用したプログラムの開発能力を身につける形がとられました。

初日は開会式の後、5つの班に編成され、私が加わったふくろう班のメンバーは、リーダートレーナーや県連・地区のコミッショナーの方が多く集まり、全期間を通して班長を務めることはプレッシャーでしたが、班員の知識と創意工夫にふれて、より効果のある着眼点を持つことができたことは、貴重な経験になりました。

高萩の自然環境や文化、そして班の協調関係の具合を加味した熟成されたプログラムは、スカウト時代や指導者になった直後の必死さを思い出させてくれましたし、自分のスキル不足や意識の低さを痛感することになりました。

事前準備を充実させ、ひとつでも多くの完成度を高めたスキルを活用することが、スカウト教育の醍醐味であると改めて実感しています。

ウッドクラフトへの理解をこれまで以上に深め、スカウト達に純正なスカウティングを届けていくためには、本コースは大変意義深く、私を取り組まなければならないことは、改めてここで得た経験を振り返り、継続して反復練習して団・隊の指導者とも共有し、活動に活かしていくことだと思います。

5日目の野営祭で私が発表した、「若さが一番の武器。時間には余裕がある。より丁寧にスカウティングに向き合っていきたい」という決意をいつまでも忘れずに、自己研鑽に励みたいと思います。

今後、各地で開設されるウッドクラフトコースに指導者の方が参加する機会があれば、スカウトスキルを活用した魅力あるプログラムの展開に役立つものと思います。



コース中の写真撮影は禁止のため、日本連盟のSCOUTING誌、ホームページから転載しました